

## 授業づくりの工程

前題材までに到達している実態を把握

子どもに望む姿を想定

指導内容の決定  
(研究生産物を基に)

学習指導要領の指導  
内容から段階を決定

題材目標の決定

教材の設定

題材設定の立場記述

## 題材計画構想

授業構想シートを活用

## 本時案作成

題材開始

R研で毎時間の授業の  
評価・改善

題材終了

観点別評価の実施

## 実践事例

指導内容：聞くこと・話すこと 小学部3段階 知識技能：イ(ア) 思考力、判断力、表現力：カ

教材と仕組み：『クイズ どうしてでしょう』で「なぜ」と聞かれて相手に伝わるように、理由を答える。  
原因と結果の様子を示すイラストを見て、「なぜ」と聞かれたことに答えてポイントを獲得する仕組みで行った

### 題材目標

知識・技能：「なぜ」と問われたとき、理由を選んだり、答えたりする

思・判・表：問われたことに答えるとき、原因と結果のつながりの要素がわかり、  
つながりの要素と理由を話す

学 び：提示された問題に取り組み、伝わりやすさを考えて話す

### 評価規準

知識・技能：問われたことに対する理由を答えたり、選択肢から選んだりする

思・判・表：問われたことへの答えとなる理由と、原因と結果のつながりの要素を話そうとする  
理由とならなかった事柄について、なぜそれが理由とならないのかを話そうとする

学 び：提示したすべての課題に自ら取り組み、ゆっくりと相手に伝わる声の大きさを話す

〈原因〉



〈結果〉



知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の  
それぞれの内容の高まりやつながりについて

三つの柱の目標を達成するための  
働きかけや工夫

### 結果から理由を考えることへの取組

〈考えを出しやすく〉  
結果の場面から理由を考えることにより、どうしてこうなったか生徒が考えるときに、様々な考えを出しやすくと考えた。  
〈理解しやすく〉  
結果に到達した要因を生徒が自由に挙げることで、理由とは結果につながった事柄であることを理解しやすくと考えた。  
〈相手に伝わりやすく〉  
理由や、原因と結果のつながりを伝えることができるようになってからは、イラストのできごとを時系列でみていくようにし、問われたことに対しての理由を考え、答えるようにした。

〈結果だけのイラスト〉



〈できごとを時系列に並べたイラスト〉

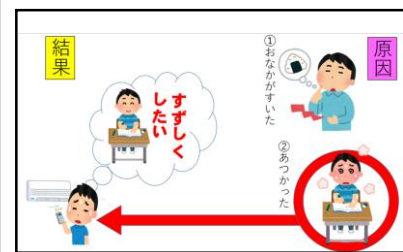


主体的で対話的で深い学び  
の実現に向けた工夫

ポイント

### ICTの活用

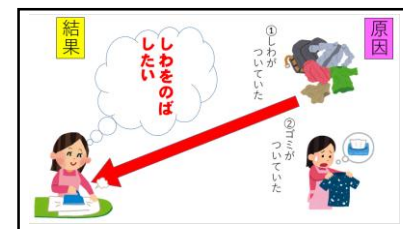
原因と結果がわかりやすいよう、パワーポイントのアニメーションを使ってイラストを示し、こうなったのは(結果)、こんなことがあった(原因)からだと思えやすいようにした。



ポイント

### 原因とならない理由

原因として挙げなかった事柄について、なぜそれが原因とならなかったかを考えることで、原因と結果のつながりの理解をより深められると考えた。そこで理由を述べた後で、他の事柄が原因とならないことを答える場面を設けた。

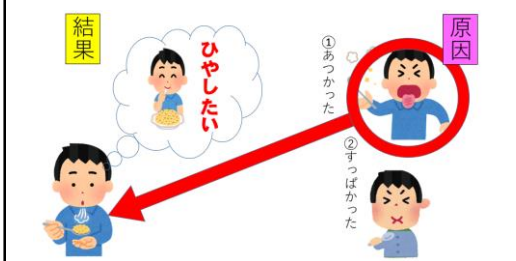


「アイロンをかけてもゴミは取れないから」のように答えられるとよい。

### 原因と結果のつながりの要素を考える取組

原因と結果がどのようにつながっているかを問うことで、原因と結果を結びつけているもの(要素)が何か考えるようにした。結果の場面での行動から生じる効果や影響などを考えることによって、つながりの要素を考えやすいようにした。要素を挙げることができたときには、要素が原因と結果にどうつながっているのかさらに問い、生徒が答えた内容を教師がつながりを整理して伝え、理解を深められるようにした。

〈原因と結果のつながりの要素を示したもの〉



息をふきかけると食べ物がかえる→「食べ物がかえて冷やしたかったからです」のように答えられるとよい。

## 気づき・改善 考察

- ・結果の場面(なぜこのようになったか)から生徒が自由に理由を挙げる活動を行うことで、問われていること、結果、原因の理解をしやすくなったと考える。自由に理由を挙げることができたため、生徒の発言の機会を多く設けることができた。
- ・イラストを使い人物の行動(結果)の場面、その人物が何をしたか原因と結果のつながりとなるようにし、したかったことに吹き出しをつけて示した。それによって原因と結果のつながりを理解しやすくなったと考える。
- ・なぜ手を洗っているのですかという問いに「きれいにしたかったからです」「手が汚れていたからです」と話す姿があったため、どのような順序で話すとわかりやすく伝えられるかを「話すこと」の学習で扱う必要があると感じた。例：「手が汚れていてきれいにしたかったからです」のように話す。
- ・題材の終盤、特定の人物の好みなど(例：〇〇さんはチョコレートクリームが好きだけどイチゴは好きではない)の情報をもとに、その人へのプレゼントを選び、なぜそのプレゼントを選んだか理由を話す活動を行った。場面が変わっても好みとプレゼントの情報から理由の考え方がわかり、思考力・判断力・表現力等の高まりを感じた。

